

法文学専攻

専攻のディプロマ・ポリシー(DP: 修了認定・学位授与の方針)

<教育理念と教育目的>

法文学専攻では、修士課程修了者に相応しい高い倫理観と責任感を備え、他者と協働して社会的課題を解決したり地域の文化を向上させたりしようとする実践的な研究能力を育成することを教育研究目的としています。

<育成する人材像>

法文学専攻では、人文社会科学における高度で専門的な知識とそれに基づいた研究能力の修得をめざします。法学及び人文学の各専門分野に関する高度で専門的な知見をもって地域の共生社会に寄与する能力と資質を持った人材を養成します。

<学習の到達目標>

1. 専門分野の知識と研究遂行能力

人文社会科学における高度で専門的な知識とそれに基づいた研究遂行能力——資料収集力、情報分析力、論理的思考力、文章表現力——を修得している。

2. 俯瞰的思考力を有する課題発見力

人間社会を高次から俯瞰する思考力をもって、人間のさまざまな営為を分析し、諸課題を発見する力を備えている。

3. コミュニケーション能力と社会的役割

他者やテキストとの対話を重ねることによって、多様性と普遍性との間を架橋しようとするコミュニケーション能力を有するとともに、その社会的役割の重要性を認識している。

4. 人文社会科学の知見とそれを活用する資質

専門分野に関する諸問題を精確に探究するとともに、人文社会科学の高度で専門的な知見をもって地域の共生社会に寄与する資質を有している。

5. 修士課程修了者としての姿勢

修士課程修了者として高い倫理観と責任感を併せもち、他者と協働しながら社会的課

題を解決しようとする実践的な姿勢を身につけている。

＜修了認定・学位授与＞

法文学専攻の定める教育課程を修め、所定の期間在学し、厳格な成績評価を経て所要の単位を修得し、かつ、修士論文又はリサーチペーパーを提出してその審査を受けることにより修了要件を充たした学生を対象に修了認定を行い、その専門分野に応じた修士の学位を授与します。

専攻のカリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）

＜教育課程の編成と教育内容＞

1. 1年次前学期に法文学専攻の学生が共通して身につけるべき専門分野の研究に必要な基礎的技能を実践的に養う専攻基礎科目を配置し、また、併行して、「新たな価値の創造や地域社会の問題解決」という研究科の教育理念に関連するテーマを分野横断的に考察し、幅広い思考力を涵養する研究科基礎科目を置く。
2. 専門科目では、専門科目（講義系）と専門科目（演習系）を1年次にバランスよく配置し、他コース他専攻の専門科目（講義系又は理論科目）を5単位まで履修可能にすることで、幅広い知識と俯瞰的思考力を身につけさせる。専門科目（演習系）には、実践的な研究能力を養成するために、プロジェクト演習などの科目を置き、研究演習でも文献調査や実地調査など、研究実践に則した授業を実施する。
3. 修士論文の指導では、2年次前学期に「研究指導1」、後学期に「研究指導2」を主指導教員による授業として配置し、徹底した論文指導を行い、高い汎用性をもつ研究能力を養成する。リサーチペーパーの指導では、実践的な提案や解決策等を示すことができる能力を養成する。修士論文又はリサーチペーパーの指導には、主副指導教員はもとより、法文学専攻で実施される「構想発表会」「中間発表会」「成果発表会」を通じて、法文学専攻及び研究科の複数の教員がかかわる。
4. 大学院修了後に実社会での活躍に求められるビジネスマインドを学生に修得させるためにキャリア形成科目としてインターンシップを置き、修了後の希望進路に応じて受講できる科目を用意する。

＜教育方法と成績評価＞

法文学専攻では、基礎的・分野横断的科目から専門分野へ深化するよう各科目群を系統的に配置しています。学生は、教育課程の目標に則して開講される科目を、2年間でバランス良く履修します。研究科基礎科目や専攻基礎科目、他コース・他専攻の科目履修を通じて学際的視座を養うとともに、インターンシップなどキャリア形成科目を履修することで、学生の修了後の進路を見据えた教育を行います。普遍的な理論と俯瞰的思考力に基づいて社会に伏在する価値を見出す、高度専門職業人や高度な知的資源をもつ人間を養成することを目的に、研究実践に即した授業を行います。

各科目の到達目標に合わせ、専門科目（講義系）や専門科目（演習系）、研究指導においても主体的な学修を実践し、最適な形式で授業を開講するとともに、時間外学習を促します。また、修士論文又はリサーチペーパーの指導では、主・副指導教員による広い視野からの研究支援を行います。

学生は、自己の学修の振り返りと主体的な学びを実現するために学修ポートフォリオを作成します。2年次には複数回の研究発表会を開催し、学生自身がその達成度を確認できるようにします。

すべての授業科目において、筆記試験・レポートなどにより、客観的な評価基準に基づく厳格な成績評価を行います。

＜カリキュラムの評価＞

修士論文又はリサーチペーパーの内容、学修ポートフォリオなどによる学生の自己評価、学生に対するアンケート、就職先等へのアンケートやヒアリングなど、種々の方法による調査結果を分析し、学修到達目標の達成状況や授与する学位の学術的な水準について検証を行います。

専攻のアドミッション・ポリシー（AP：入学者受入の方針）

＜求める入学者像＞

1. 志望分野の専門的知識と表現力

人文社会科学における志望分野について、学士課程修了相当の専門的な知識をもち、その内容についての確に表現することができる。

2. 人文社会科学に対する幅広い視野と課題設定力

人文社会科学における志望分野について幅広い視野から論理的に捉えることができ、主体性をもって研究課題を設定することができる。

3. 社会への知的好奇心と学びに向かう意欲

社会に対する知的好奇心をもち、その発展に寄与するために学びに向かう意欲を有している。

4. 学士課程修了者としての責任感と態度

学士課程修了者として責任感をもち、多様性を尊重しながら他者と協働的に関わろうとする態度を有している。

<入学者選抜の方針>

基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、筆記試験と口頭試問により多面的・総合的に評価します。

選抜方法は、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、オープン型選抜を実施します。一般選抜のほかに、社会人、外国人留学生、学士課程とは異なる専門分野を志望する受験者(オープン型選抜)に対しても、それぞれが有する知識・経験や実績に応じた選抜方法を設けて評価し、多様な能力をもつ意欲ある学生に対して門戸を開きます。